



慶應義塾大学ビジネス・スクール

慶應義塾大学先端生命科学研究所(A)

5

— アカデミック・アントレプレナーシップ —

2010年9月12日、山形県鶴岡市において、慶應義塾大学先端生命科学研究所の10周年記念行事が開かれた。“鶴岡を世界的な学術文化都市へ”を標榜するイベントは、清家慶應義塾長、吉村山形県知事、榎本鶴岡市長のあいさつに始まり、富田勝研究所長は研究所の成果報告を行い、概略次のように述べた。

10

「山形鶴岡を国際的な学術文化都市にすることは必ずできる。欧米の例を見ても、本当に独創的な研究は大都市ではなくこういう所で行われている。わが研究所の主力技術であるメタボローム解析を、科学技術振興機構は『日本が外国に勝てる強い技術』6つのうちの1つとして挙げている。今後こうした技術をいろいろな分野に応用していくことに力をいれてゆく。4年前にメタボローム解析を使って初めて急性肝炎のバイオマーカーを発見し、アルツハイマー病やがんのバイオマーカーについても内外の研究機関と共同研究をすすめている。環境面では微細藻からオイルをつくる研究をしている。富塚前鶴岡市長が言う『庄内の知的産業としての農業』の面でも、山形の新しい米『つや姫』、庄内柿、ダダチャ豆など地元の農産物のメタボローム解析により『うまみ』や風味について新しい知見を加えている。この研究所から生まれた2つのベンチャー企業はいずれも経済産業省の『光る大学発ベンチャー20選』に選ばれた。2世代後にはこの地が“日本のシリコンバレー”と呼ばれるように、新しい産業の創造に向けて頑張る。」

15

20

そのあと、県立鶴岡中央高校生の「研究助手」たち10人が紹介され、6人の外国人研究者が日本語であいさつし、鶴岡に定住した研究者やスタッフ夫妻らが感想を述べた。

25

慶應義塾大学先端生命科学研究所（先端生命研と略称）は2001年に、高橋山形県知事、富塚鶴岡市長、鳥居慶應義塾長の三者合意により、山形県鶴岡市に創設された。慶應義塾が首都圏以

このケースはクラス討論のための資料として、慶應義塾大学名誉教授石田英夫が作成した。ケースは組織体のマネジメントの適切または不適切な処理を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 石田英夫（2011年11月作成）